

農作物技術情報 第5号 花き

発行日 令和8年7月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共 通 適期収穫と出荷選別を徹底しましょう。
圃場が乾燥する前にかん水しましょう。
来年に向けた収穫後管理を適期に行いましょう。
- ◆ りんどう 黒斑病、ハダニ類、オオタバコガ等病害虫の適期防除を行いましょう。
収穫後の圃場の残花処理や病害虫防除を適切に行いましょう。
- ◆ 小 ぎ く オオタバコガ、ハダニ类等病害虫防除を徹底しましょう。

りんどう

1 生育概況

盆需要期向けの早生種の開花は、平年並みとなっています。着蕾期以降の高温の影響で、一部の品種で花卉の着色不良がみられています。また、晩生種の生育は、概ね平年並みとなっています。

病害虫では、黒斑病、ハダニ類、オオタバコガの発生が増加しています。また、アザミウマ類、リンドウホソハマキの発生がみられています。

2 栽培管理

（1）かん水・排水対策

晴天が続く場合、ほ場が過度に乾燥しないよう通路かん水を行います。ただし、日中の高温時の入水や長時間の滞水は、熱水によって株に障害が発生する可能性がありますので避けます。

また、大雨に備え水路などからの流入水を防ぐため、畦畔の補強、水路の泥やごみの除去を行います。ほ場が滞水した場合は、排水路に水が流れやすくなるよう溝切りをして速やかに排水します。

（2）ネット管理

茎の曲がりが生じないように、随時フラワーネットの位置を調整します。また、今後の台風に備え、ネットと支柱を点検・補強します。

（3）追肥（礼肥）

中生品種までは、収穫後に速効性肥料で窒素、カリ各成分量で3～5kg/10aを施用します。

（4）残花処理

収穫後の残花は、アザミウマ類、アブラムシ類等の害虫や花腐菌核病の増殖・感染源となります（写真1）。アブラムシ類はウイルスを伝搬するため、発生すると翌年のウイルス病が増加しやすくなります。花蕾の着いている部分の茎を折り取り（花茎除去）、除去した花茎は放置せずほ場外で処分します（写真2）。この際、ウイルスの伝染を防ぐため、花茎は手で折り取り、刃

物は使わないようにします。



写真1 残花処理前



写真2 残花処理後（花茎除去）

3 収穫・調製

（1） 収穫・調製

収穫前に各地域の出荷目揃会等で出荷規格を確認し、それに応じた選別、調製を行い出荷します。特に、適切な開花状態（切り前）で出荷できるよう、**適期に収穫**します。

（2） 鮮度保持

収穫後は日陰で速やかに水揚げを行います。水揚げ容器は、内側にぬめりが生じないようにこまめに洗浄します。また、水揚げに用いる水は**飲用可能なものとし毎回交換**します。

4 病虫害防除

（1） 黒斑病

7月中旬頃から**発生が増加**しています。例年、8月以降に降雨が多くなると発生が増えますので注意します。特に、着蕾期になると草勢が衰え、上位葉や側芽、がく片に感染し発病しやすくなりますので、**着蕾期に効果が高い薬剤で防除**します（写真3, 4）。薬剤散布する場合は、**降雨前に散布する**ようにします。

また、葉の傷口等から容易に感染するため、台風の接近後に感染が拡大した事例があります。治療は困難ですので、有効薬剤による予防散布を継続します。



写真3 葉に発生した黒斑病



写真4 がく片に発生した黒斑病

(2) 葉枯病

現在、発生は少なく抑えられていますが、上位葉に発生がみられるほ場も確認されていますので、**降雨前の予防散布**を継続します。また、**新植苗**で多発すると翌年の生育不良や株の枯死の原因になりますので、採花ほ場と同様に**定期的に薬剤防除**します。

(3) 花腐菌核病

例年、気温が低下し始める8月中旬頃から発生が始まります。このため、猛暑の年は発生が遅くなる傾向です。県の防除情報を参考にし、**適期に有効薬剤を散布**します。また、この病気は一次感染が着色期以降の花蕾であるため、上述した**収穫後の花茎除去が有効な対策**となります。

(4) ハダニ類

7月に入り発生が増加しています。ほ場をよく観察し、**発生初期の防除**を心がけます。下葉の黄化や、葉裏に多数の白色微小斑点・褐色のカスリ状模様がある場合は、ハダニ類の食害による可能性があります(写真5, 6)。自分で判断が難しい場合は、農業改良普及センター等の指導機関に相談してください。

また、ハダニ類に薬液が付着しなければ薬剤の効果が得られませんので、葉裏にしっかり薬液がかかるよう、**動力噴霧器の圧力を高めにして丁寧に散布**します。



写真5 葉裏に寄生するナミハダニ



写真6 ハダニ類に吸汁された箇所は葉の表から見ると黄化している

(5) オオタバコガ

各地域のフェロモントラップ調査では、7月中旬から誘殺数が増加しています。また、生長部付近への産卵や幼虫の食害が確認されています。今年は発生が少なく経過していましたが、今後注意が必要です。生長点付近の茎葉や花蕾に産卵し、幼虫が花蕾内部に侵入し加害しますので、**着色が始まるほ場では防除を開始**します(写真7, 8)。また、収穫しない花蕾の中で幼虫が成長し、次世代の発生源となりますので、**花蕾は必ず折り取りほ場外で処分**します。



写真7 花蕾への産卵

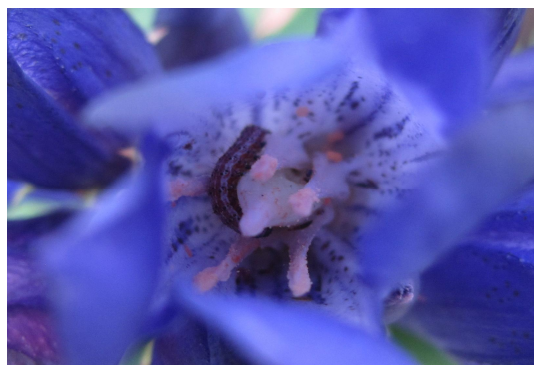


写真8 花内部に侵入した幼虫

（６） アザミウマ類

高温、乾燥で経過すると多発しますので、今後の発生状況に注意が必要です。花蕾の着色に伴い成虫が飛来し増殖しますので、花卉が着色しはじめた頃から薬剤防除を開始します。また、収穫しない花蕾をは場に残すとそこが発生源となり、次に開花する品種に飛来して加害しますので、花蕾の着いている部分を折り取りほ場で処分します。

小ぎく

１ 生育概況

８月咲き品種の開花は、昨年より早く**平年並み**となっています。また、９月咲き品種の生育は、概ね**平年並み**となっています。

病害虫では、オオタバコガ、ハダニ類の発生が増加しています。また、白さび病、アザミウマ類、アブラムシ類の発生がみられています。

２ 栽培管理

（１） かん水・排水対策

高温が続いていますので、乾燥が続く場合は**萎れる前にかん水**します。ただし、高温時の滞水に著しく弱く、根腐れを起こして枯れ上がりしやすいので、**高温時のかん水は避けます**。大雨後の排水対策も重要で、**ほ場内が冠水した場合は、溝切り等によって速やかに排水を促します**。

（２） ネット管理

りんどうと同様、茎の曲がりが生じないように、**随時フラワーネットの位置を調整**します。また、今後の台風に備え、**ネットと支柱を点検・補強**します。

（３） 伏せ込み用親株選抜

株の状態の判断は収穫後では難しくなるため、**必ず収穫前に選抜**します。開花期が目的とする時期に合っていること、草丈がよく伸び本来の品種特性を備えて揃っていること、葉の枯れ上がりが少ないこと、病害虫（特にウイルス、ウイロイド、土壤伝染性病害）のないことを確認して優良な株を選抜し、目印を付けておきます。

（４） 収穫後管理

伏せ込みに利用する株は、収穫後に地上部が伸びすぎないように地際５～１０cmのところでは台刈りをします。その後、速効性の化成肥料を窒素成分量で３kg/１０a程度施用します。マルチ栽培では、生育を促すために台刈り後にマルチを除去して土寄せするのが基本ですが、除草労力を考慮して決めます。なお、かき芽で伏せ込む場合は、台刈り後に発生した側枝に土寄せをして側枝の発根を促します。

３ 収穫・調製

（１） 収穫・調製

収穫前に各地域の出荷目揃会等で出荷規格を確認し、それに応じた選別、調製を行い出荷します。特に、適切な開花状態（切り前）で出荷できるよう、**適期に収穫**します。気温が高い時期は収穫後の開花が進みやすいので、切り前に注意します。

（２） 鮮度保持

りんどうと同様に、**収穫後は日陰で速やかに水揚げ**を行います。水揚げ容器は、内側にぬめり

が生じないようこまめに洗浄します。また、水揚げに用いる水は飲用可能なものとし毎回交換します。

4 病害虫防除

(1) 白さび病

気温が高く、発生は少なくなっていますが、**降雨前の薬剤散布で予防**に努めます。発生の有無や収穫の前後にかかわらず、定期的な防除を継続することが重要です。発病後は罹病葉を除去し、ほ場外に持ち出して処分し、治療効果の高い薬剤を散布します。一般に暑い時期は症状が治まる傾向にありますが、秋雨時期に再び増加するおそれがありますので注意します。

(2) ハダニ類

7月中旬頃から発生が増加しています。ほ場をよく観察し、発生初期の防除を心がけます。ハダニ類に薬液が付着しなければ薬剤の効果が得られませんので、葉裏にしっかり薬液がかかるよう、**動力噴霧器の圧力を高めにして丁寧に散布**します。

(3) オオタバコガ

各地域のフェロモントラップ調査では、7月中旬から誘殺数が増加しています。また、生長部付近の茎葉や花蕾の食害が確認されています（写真9, 10）。**着蕾が始まる前から防除を開始**します。例年、8月以降に発生が増加しますので、ほ場をよく観察し早期発見に努めるとともに、各地域の防除暦や防除情報に注意し防除します。



写真9 着蕾前の生長部の食害



写真10 蕾の食害

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は8月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。